

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第25週 (6/17-6/23) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		25週	24週	23週	22週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	6/17-6/23	6/10-6/16	6/3-6/9	5/27-6/2	6/10-6/16
			25週	24週	23週	22週	24週
小児科	RSウイルス感染症		10 0.56	1 0.06	3 0.17	4 0.22	18 0.13
	咽頭結膜熱		20 1.11	11 0.61	10 0.56	25 1.39	98 0.73
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		51 2.83	43 2.39	44 2.44	66 3.67	450 3.33
	感染性胃腸炎		97 5.39	105 5.83	123 6.83	128 7.11	725 5.37
	水痘		4 0.22	3 0.17	4 0.22	6 0.33	81 0.60
	手足口病	★★★	98 5.44	83 4.61	39 2.17	28 1.56	438 3.24
	伝染性紅斑		21 1.17	11 0.61	19 1.06	9 0.50	91 0.67
	突発性発しん		11 0.61	11 0.61	11 0.61	14 0.78	60 0.44
	ヘルパンギーナ		7 0.39	2 0.11	3 0.17	0 0.00	71 0.53
	流行性耳下腺炎		5 0.28	3 0.17	0 0.00	5 0.28	24 0.18
	インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)	0 0.00	5 0.18	5 0.18	18 0.64	35 0.16
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	3 0.60	4 0.80	4 0.80	13 0.37
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.33

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(24件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳代	IGRA検査	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	50歳代	病原体等の検出	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	60歳代	病原体等の検出等	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	70歳代	病原体遺伝子の検出等	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	80歳代	病原体の検出	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
レジオネラ症	女性	60歳代	病原体抗原の検出	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
急性脳炎	男性	20歳代	高熱及び中枢神経症状等	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
梅毒	男性	30歳代	血清抗体の検出	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
梅毒	男性	30歳代	血清抗体の検出	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
梅毒	男性	50歳代	血清抗体の検出	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
梅毒	女性	10歳代	血清抗体の検出	風しん	男性	30歳代	血清IgM抗体の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出

・第25週は、結核5件(91)、レジオネラ症1件(5)、急性脳炎1件(7)、梅毒4件(17)、百日咳9件(59)、風しん4件(32)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第25週のコメント

＜RSウイルス感染症＞前週より増加し0.56となった。過去10年の同時期と比べると最多。

＜咽頭結膜熱＞前週より増加し1.11となった。過去10年の同時期と比べると最多。

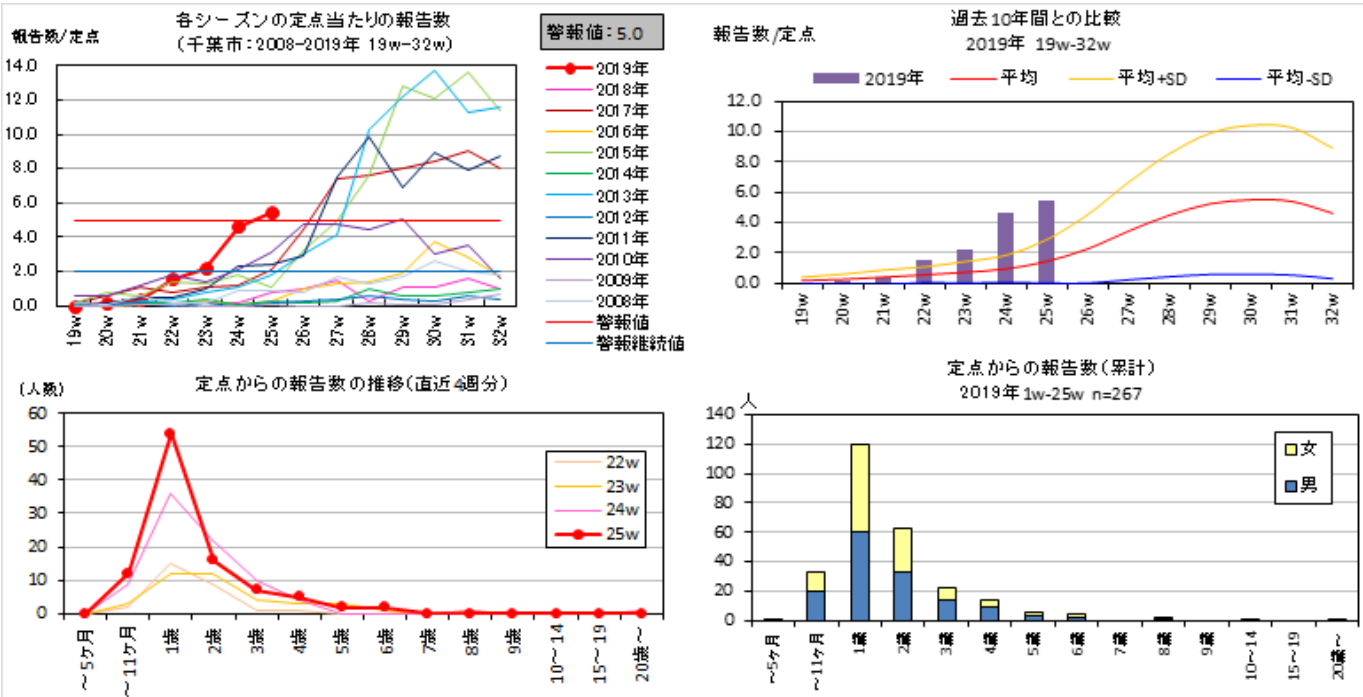
＜手足口病＞前週より更に増加し5.44となり、流行発生警報開始基準値を上回った。過去10年の同時期と比べると最多のまま。

＜伝染性紅斑＞前週より増加し1.17となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

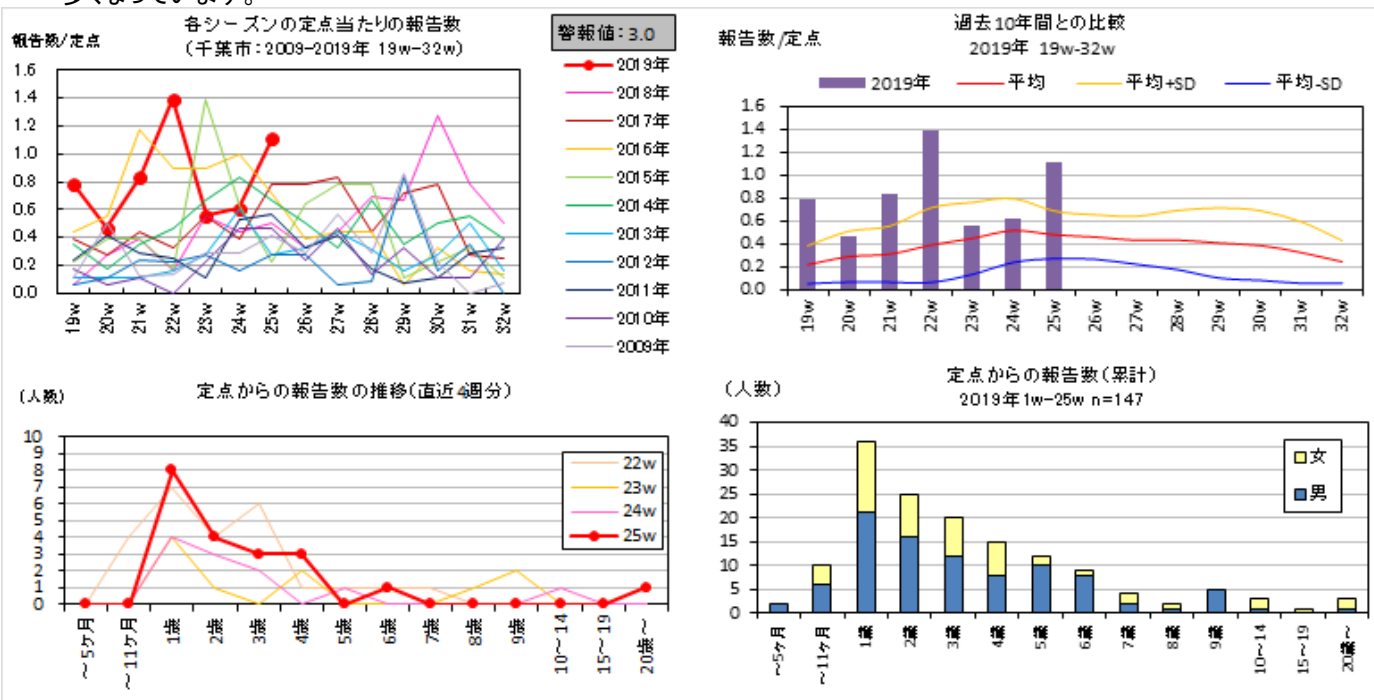
＜手足口病＞

全国レベルの第24週の定点当たりの報告数は4.02で、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では佐賀県、福岡県、鹿児島県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は3.23で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第25週は前週より更に増加し5.44となり、流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回りました。過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、稲毛区(22.0/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。また、若葉区(5.5/定点)でも流行発生警報開始基準値を上回っています。2019年第1週から第25週までの累積報告数は267件で、性別では男性が53.6%(143名)、女性が46.4%(124名)となっており、年齢階級別では1歳(44.9%:120名)、2歳(23.6%:63名)、6-11か月(12.4%:33名)の順で多くなっています。



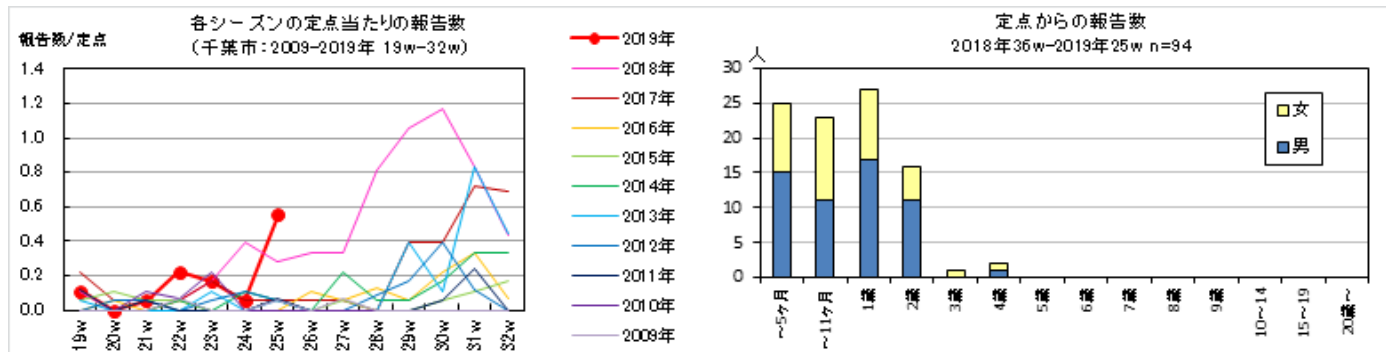
＜咽頭結膜熱＞

全国レベルの第24週の定点当たりの報告数は0.68で、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では、新潟県、福島県、滋賀県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.73で、ほぼ全国レベルとなっています。千葉市の第25週は前週より増加し1.11となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、若葉区(3.5/定点)で流行発生警報開始基準値(3.0/定点)を上回り最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第25週までの累積報告数は147件で、性別では男性が63.3%(93名)、女性が36.7%(54名)となっており、年齢階級別では1歳(24.5%:36名)、2歳(17.0%:25名)、3歳(13.6%:20名)の順で多くなっています。



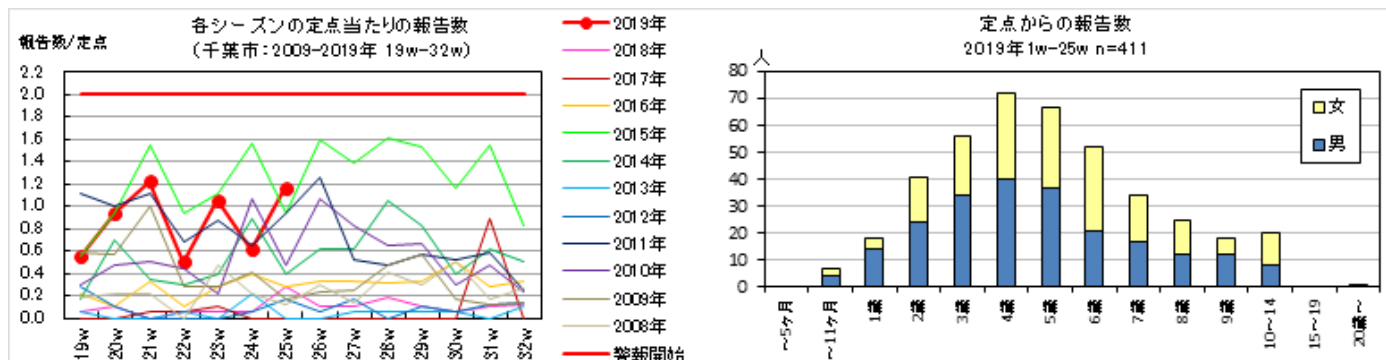
<RSウイルス感染症>

全国レベルの第24週の定点当たりの報告数は0.26で、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、沖縄県、福井県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.13で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第25週は前週より増加し0.56となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、緑区(2.0/定点)で最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第25週までの累積報告数は94件で、性別では男性が58.5%(55名)、女性が41.5%(39名)となっており、年齢階級別では1歳(28.7%:27名)、0-5か月(26.6%:25名)、6-11か月(24.5%:23名)の順で多くなっています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第24週の定点当たりの報告数は0.67で、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、長野県、富山県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.69で、ほぼ全国レベルとなっています。千葉市の第25週は前週より増加し1.17となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、花見川区(2.5/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最も多く、同区の7歳で最も多く発生報告がありました。その他、稲毛区(2.33/定点)で流行発生警報開始基準値を上回っています。2019年第1週から第25週までの累積報告数は411件で、性別では男性が54.3%(223名)、女性が45.7%(188名)となっており、年齢階級別では4歳(17.5%:72名)、5歳(16.3%:67名)、3歳(13.6%:56名)の順で多くなっています。



<風しん>

全国レベルの第24週の発生届累積数は1793件で、昨年の同時期と比べると50倍を上回っています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県の順で多く報告されており、関東地方で多くなっています。千葉市では第25週に4件の発生届があり、2019年の累積数は32件となりました。性別では男性が78.1%(25名)、女性が21.9%(7名)となっており、年齢階級別では30歳代(37.5%:12名)、40歳代(28.1%:9名)、50歳代(12.5%:4名)の順で多く、30歳代~40歳代の男性が中心となっています。ワクチン接種歴は、無し又は不明が全体の9割以上を占めています。

